

3.11 思い出さなくてもいいよ

2012年(平成24年)

3月3日

土曜日

夕刊

米朝、7日に食糧協議 2面
米で竜巻、大規模被害 11面

文化 ポップ

アニメなどで人気の「ダンボール戦機」。子ども向けのプラモデルもヒットしている。その理由は。 3面

「プレーバック1週間」2面

be evening 4.5面
スポーツ9面/小説2面
グラフ6面
「窓」2面/金融7面
TV・ラジオ9.12面



充実の記事と機能
PC・iPad・iPhone
アンドロイド端末で
digital.asahi.com



朝日新聞東京本社
発行所：〒104-8011 東京都中央区
築地5-3-2 電話：03-3545-0131
www.asahi.com

学校行事、子の心に配慮

「震災1年」を子どもにどう迎えさせるのか、被災地の学校が心を砕いている。作文などで1年を振り返る取り組みがある一方、特別な行事を避ける学校もある。いずれも、惨劇の記憶で子どもの心を再び傷つけないよう、慎重にその日に備えている。

「子どもに『無理はしなくていい』と伝えよう」

岩手県釜石市の唐丹小学校で2日、教職員たちが「震災1年」に向けた取り組みを確かめた。11日に先立ち、児童に1年を振り返る作文を書かせる予定だ。

全校児童は70人。津波で校舎が全壊し、仮設教室での授業が続く。青笹光一校長は「体験を表現したいと思う子は多い。不安が和らぐきっかけにもなるだろう」と期待を寄せる。

だが、児童の落ち着いてきた心を刺激してしまうのでは、という不安も残る。

青笹校長は先月27日、カウンセラーを招き、他の教師らと助言を聴いた。「子どもや保護者に事前に伝え、作文を誰が読むのかもはっきりさせるのが大切」。そうした意見をもとに、全校集会で「つらければ、震災と無関係のことを書いてもいい」と呼びかける。

児童1人が亡くなった宮城県名取市の閉上小学は、9日に「震災1

■震災関連行事などの注意点

- 児童生徒・教職員の全員参加が望ましい
- 参加困難な子は、同じ時に別の場所で可能なことをく(黙禱(もくとう)など)
- 行事の後、子どもを教室に集めて話し合いの時間を作る
- 保護者に事前に伝え、行事後の子どもの様子に注意させる(岩手県立総合教育センターのウェブサイトで)

年目の会」を開く。平山和紀校長は「被災体験が一人ずつ違い、全校行事はやりつらかったが、何もなかったかのように1年を迎えるのもどうかと思った」。

児童を自由参加にし、10分程度にとどめる形で実施を決めた。児童らに「よく頑張ったね」と伝える簡素な内容にするという。

一方、岩手県陸前高田市の気仙小では、特別な行事を予定していない。佐藤誠喜校長は「再び心の傷を負うのを避けたい。特別視しない考え方もあると思う」と話す。生徒14人が死亡した名取市の閉

上中も全校行事をしない。カウンセラーや医師が生徒の話聞く取り組みを続ける。担当者は「みんなが同じ体験をしたわけではない。個人にあわせて対応したい」。各地の教育委員会も、1年に向けた対策をとっている。

岩手県は2月下旬、学校が震災関連行事をする際の注意点をウェブサイトで紹介した。表。学校心理士が作ったもので、家庭での対策も盛り込まれている。担当者は「震災を思い出す機会が増える。子どもを混乱させない知識が必要だ」と説明する。

福島市も2月、「震災後1年を迎えるにあたって」と題した文書を市立の幼稚園と学校に配った。気持ちに不安定になる「アンバーサリー(記念日)反応」を懸念し、行事への参加強制を避けたり、震災後の子どもの頑張りをはり、震災後の子どもを励ますよう勧めている。

宮城県では昨年末以降、被害の大きかった沿岸部の学校から、カウンセラーの数を増やしてほしいとの声相次いだ。県教委の担当者「震災1年を意識した動きでしょう。全ての要望に応じてきました」と話している。

(合田 稜、岡雄一郎)